

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 5月 11日

事業所名 ほまれっこ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	75%	25%	利用者の安全確保に努めている	障害特性や相性などに配慮し活動内容によって部屋の使い方を工夫している。
	2 職員の配置数は適切である	50%	0%	その日利用の児童に合わせて配置している。	配置基準は満たしているが、児童に応じた支援をするためには不十分な面もある。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	段差のあるところにスロープを設置している。	段差以外にも危険個所がないか確認している。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	50%	0%	ケース会議等で行っている。	パート職員は参画していないので今後は周知する必要がある。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	連絡帳や面談などで意見を聞いている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	ホームページで公表している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	75%	0%	4半期ごとに評価を受けている。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	25%	0%	内部・外部研修に積極的に参加している。	指摘を受けた内容は改善するよう努めている。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	使用している。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	職員間で連携を取り立案している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%		プログラムの内容が重ならないように配慮している。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	設定している。	平日は短時間でできるプログラムを行い、休日や長期休暇は遠出や企画を立てたプログラムにしている。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	個々の課題に応じた支援を行いながら集団活動を計画している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	その日のプログラムを事前に確認している。	プログラムを見て不明点があれば口頭でも確認するようにしている。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	全員が揃わない時はメモ等で引き継ぐようにしている。	不足分は日誌などを確認し翌日には振り返るようにしている。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	毎日業務日誌を記録している。	業務日誌、個人日誌をつけている。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	週に1回の会議で個人ケースの検討を行っている。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	75%	0%	ガイドラインを確認している。	全体の周知になっていないのでしていきたい。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児童発達支援管理責任者が参画している。	関係機関と連携して最善の支援に努めている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	マチコミメール、家庭からの連絡、送迎時に先生と引継ぎをしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	100%	医療的ケア児の受け入れは行っていない。	看護師の配置がないので受け入れは難しい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	25%	0%	必要であれば行う。	現在中高性が多く、就学前の機関とはつながっていない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	必要であれば行う。	卒業後の受け入れ先から希望されれば行う。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	75%	0%	あれば行っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	0%	あれば行っている。	今年度はコロナ禍で行われていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	0%	あれば行っている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳で日々の状況を教えていただいている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	75%	0%			
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	行っている。	契約時に行っているが、もっと浸透するように工夫が必要である。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	行っている。	連絡帳や電話などで迅速に対応している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	75%	0%	最近では開催できていない。	以前は2ヶ月に1回開催していたが、コロナ禍になりできなくなった。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	苦情対応窓口を設置している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	1ヶ月に1回法人ニュース、2ヶ月に1回ほまれっこニュースを発行している。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	注意している。	外部との会議等で情報を共有する機会があるため個人情報同意書をいただき許可を得ている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	個々に応じた方法で伝達している。	写真、イラスト、文字などでわかりやすく説明している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	75%	0%	行っている。	コロナ禍で減ってはいる。月2回陶芸教室に部屋を貸し出している。法人では古着市を開催している。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	75%	0%	防犯マニュアルはない。	防犯マニュアルを作成し、周知を徹底する必要がある。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	地震や火事の避難訓練を行っている。	実際の避難訓練のほかに、紙芝居などを使って分かりやすく伝えている。避難場所までのルートを確認を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	内部研修、外部研修に積極的に参加している。	虐待防止委員会を設置して検討している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	同意書を取り、個別支援計画に反映している。	身体拘束適正化委員会を設置して検討している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	75%	0%	保護者から情報提供をいただいている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	75%	0%	文書に残している。	第三者委員会で検討し、それを職員間で共有している。